

題名 知ることの大切さ

鹿沼市立北押原中学校 (氏名) 大門 由依



私はこの三日間で、戦争の残酷さや無意味さを改めて感じました。特に印象に残っていることは、被爆体験講話学習で

の飯田さんのお話です。教科書にも本にも書かれていない原爆の真相を知りました。「爆心地には遺体がない」、「遺体からのメタンガスで昼夜ともに火事が起きる」、「6,500名程の原爆孤児は見殺しにされた」などと飯田さんがおっしゃっていた数々の言葉には、とても重みがあり、恐ろしく、私たちに原爆の愚かさを教えてくれるものでした。

そして、私がテーマにしていた「唯一の被爆国である日本の役割」についても、そのたくさんある答えのうちの一つを見つけることができました。それは、「知る」ことです。戦争が何をもたらしたのか、広島で何があったのか、戦争を経験した方々がどのような思いでいたのか。私たちはそれを知り、伝え続けなければいけません。知ろうとすることから平和は始まると思います。戦争のない世界を創るために、願っているだけでなく、何か行動できる人でいたいです。